

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月31日

学校法人ゆうあい学園 ゆうあい幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・健全な心身の基礎を培う
- ・自立と協同の態度及び道德性の芽生えを培う
- ・豊かな心情や思考力の芽生えを培う
- ・喜んで話したり、聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養う
- ・豊かな感性を育て、創造性を豊かにする

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・自主的に生き生きと活動を展開できる環境を構成し、学びに向かう力育む。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	遊び込む経験が存分にできる環境づくりを心掛け、園の中で自由に遊べる時間・空間・遊具や素材などの環境整備を見直す。	B	月反省の際に環境構成の取り組みについてお互いにどのような取り組みが出来たかを話し合ったり、取り組みたいことについて相談する。
2	子どもの『やりたい』という気持ちを尊重する保育者の受容的な関わり方を職員間で共有、検討する。	B	各クラスの保育を職員同士で見学し、保育者の関わり方や保育の進め方、環境構成などについて話し合う。(1学期2クラス2学期5クラス実施)
3	幼児同士のかかわりの姿や遊びこむ姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する。	C	幼児の成長を写真や動画などで記録し、その姿を職員間で共有し、保護者にも発信していく。HPのブログを更新し、幼児の成長や保育の振り返り、話し合うことで幼児の育ちについて理解を深める。また保護者への日常的な幼児の姿を知らせる方法を検討し、実施する。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	学期ごとに学年別に評価項目の取り組み状況を確認することで、重点目標に取り組む職員の意識の向上につながった。その中から具体的に遊戯室の遊び方について環境設定を変えた事でケガの減少につながり、鉄棒や跳び箱などの取り組みを通して子どもたちの挑戦する姿や意欲の高まりを感じることができた。 昨年度に引き続き、職員の月反省の際に、学年毎の話し合いの時間を設けた事で普段からも職員同士でどんな取り組みが良くて次にどうして行きたいかなど意見が出ることも多くなった。 園内研修ではお互いの保育を見学することで、自分では気付かない声掛けや遊びの工夫を学ぶことが出来て良かった。 様々な場面で職員の意識が少しずつ変わり、職員同士で話し合いや情報の共有することが習慣化してきたため、今後も幼児の育ちを語り合う機会を具体的に持つなど意識して取り組み、園全体で学びに向かう力を育むには何が必要かを考えていきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	環境構成	幼児が主体的にかかわり、自ら活動を展開していけるような環境を構成していけるように月反省の際に遊びの環境構成について話し合う。
2	幼保小の連携	地域の幼保小の連携について考え、かかわりを少しずつ取り入れる。小学校見学や授業参観などの活動を中心に職員同士の連携についても検討する。
3	情報の発信	保護者には子どもの様子をわかりやすく伝えられるよう心掛け、日常的な様子を伝える工夫（写真や動画など）を検討する。また、様子だけでなく、保育の意図や園としての保育のねらいなどもクラス懇談など機会を捉えて伝えていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

一人ひとりを大切にという方針が子どもにも保護者にも伝わってくる保育をされていると思う。挑戦することや諦めないこと、苦手に立ち向かうということを学ぶことが出来たと子どもの成長の姿を見て感じる。保護者との連携は細かな連絡も多く、保護者の安心につながっているので、もう少し評価してもいいと思う。園外保育は中止になることが多い為、可能な場合は延期出来るよう検討して欲しい。